

～チーム星峯西小で取り組む令和5年度学校経営・運営方針の概要～

子どもたちの元気な声が校舎に響き、令和5年度（創立43年目）の星峯西小学校がスタートしました。保護者、地域の皆様には、かねてから本校教育活動に対する深い御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。お陰様で昨年度は様々な分野で教育活動の素晴らしい成果を上げることができました。令和5年度は昨年度の取組をベースに新たな歴史と伝統の1ページを切り開いていうと心を新たにしているところです。

さて、本年度は新1年生59名（R4比:89人、30人減）が入学し、全校児童が546人（R4比:614名、68人減）、全24学級（R4比:1学級減）、51名（R4比:2名減）の学校職員でスタートを切りました。これまでの取組を継承しながら、さらに充実・発展させるため、「学校、家庭、地域が連携・協働し、子ども一人一人に『生きる力』を育む星峯西小学校プランⅢ」に教職員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。今年度は4月初日からマスク着用が不要になりますが、月末まではコロナ対策を継続しながら教育活動を行っていきます。5月8日以降は新型コロナウイルスの感染症法の位置づけが5類になり、通常に戻る見通しです。本来ならば保護者や地域の方々と対面して学校経営・運営方針をお伝えすべきところですが、このような状況ですのでこれまでどおりHPや星西メール（デジタル通信システム）を活用してお伝えしていきたいと考えています。

まず、学校経営・運営の基本的な考えについてご説明します。

令和5年(2023年)はどんな年？
・新型コロナウイルス感染症は？
With Corona(ウィズコロナ)・・・コロナと共存
After Corona(アフターコロナ)・・・コロナ禍後
Post Corona(ポストコロナ)・・・アフターコロナと同義

不易流行 松尾芭蕉「去来抄」から
持続可能な Sustainable

そんな中で学校教育の現場は？
学習指導要領完全実施4年目、「教育の情報化」への対応、学校における働き方改革などGIGAスクール構想、「未来の教室 Learning Innovation」の本格稼働：R4児童生徒一人一人にタブレット端末を完全配備、本格稼働、学習者用デジタル教科書、学校・家庭間のデジタル連携システムの本格運用等→今の現役世代が次世代を担う人を育てる。社会の急速な変化に対応できる教職員が正に求められている。自己研鑽。

令和3年度4月からスタートした「学校、家庭、地域が連携し、『生きる力』を育む星峯西小学校プラン」に基づき知：「確かな学力」、徳：「豊かな人間性」、体：「健康・体力」の育成のための具体策を立案し、実行。その成果・課題などを総括し、次年度へ確実に結びつける。
【学校経営・運営の基本】
①「閉じる」→「開く」・・・説明責任、結果で示す
②「対立」→「協力・連携」・・・協調性、「共に」の姿勢
③「叱る」→「褒める」・・・質の高い指導・教育力

教職員のTW(チームワーク)& TP(チームプレイ)が重要！
→全学年学級が格差のない誠実な対応

上図2枚は、4月3日付けで全教職員に説明した学校経営・運営の基本方針の図です。今後の教育の動向、社会の動き等を見据えながら先手先手で教育活動を行っていききたいとの思いを説明しました。特に教育の基本方針として3点を掲げました。

① 「閉じる」から「開く」へ

・学校としての説明責任を果たすとともに、子どもの姿で結果を示せるようにしていく。

② 「対立・批判」から「連携・協働」へ

・学校、家庭、地域が互いの至らなさを批判しあっても何も生まれないこと、互いに協調し合い、子どもの健全育成に向けてともに取り組む姿勢を大切にしていく。

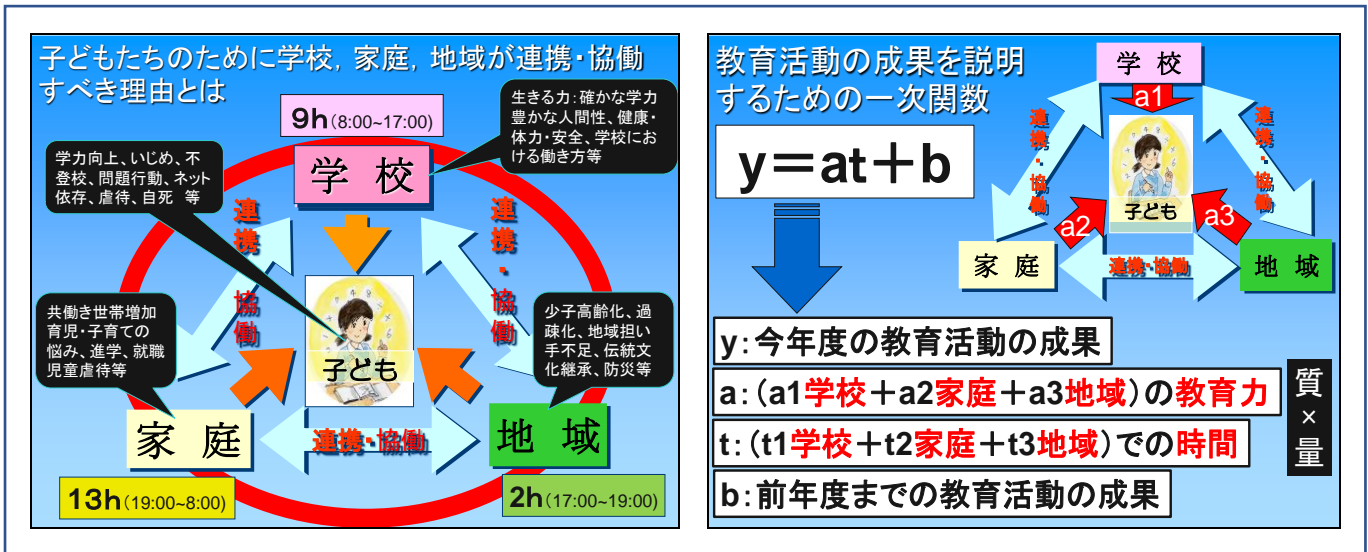
③ 「叱る」教育から「褒める」教育へ

・子どもを叱る前に教師や保護者の指導の在り方を振り返ること、もっと事前によりよい

かかわり方、手立てはなかったのかを振り返り、質の高い指導・教育力を身に付けていく。

この3点を学校経営・運営の基本的な考え方として取り組んでまいりたいと思います。

次に、学校と家庭と地域が三位一体となって取り組む姿をモデル図で示しました。



上図は学校における子ども、家庭における子ども、地域における子どもを三角形の中心に位置付けた図です。学校、家庭、地域には様々な課題が山積しています。それらの課題をみんなで一緒に考え、解決策を立てて実践しながら解決に結び付けていきたいと考えています。

子どもの姿をみると学校の教育活動が分かり、家庭の様子が分かり、地域の教育力が分かると言われます。正に子どもは学校、家庭、地域を映し出す鏡のような存在です。私たち大人がしっかりとした教育理念のもとに手を携えて取り組んでまいりたいと考えます。

課題の中には、すぐに解決できるものもあれば、時間がかかるものもありますが、それらの課題についても共通理解の場、協議の機会を可能な限りつくりたいと思います。

教育活動の成果は左上図のように1次関数で表せると考えています。学校と家庭と地域の教育力という質的なものと、かかわった時間をかけたものに比例するという考えです。より質の高い教育力をもって時間をかけて三者が一体となって取り組んでいけば、必ず子どもがよりよい方向に育っていくことと思います。

最後に4月3日に本校の全教職員に話したことがあります。それは4Sを大切にしましょうということです。4Sとは、スマイル (Smile)、スタディ (Study)、シンセリティ (Sincerity)、スピーディー (Speedy) の4つのSです。笑顔で、よく学び、誠実に対応する教職員でありたい。さらには迅速に対応する教職員でありたい。教職員みんながそのような姿勢で教育に当たりましょうと話しました。

いろいろ不明な点や疑問点等がありましたら遠慮なさらずお気軽にご連絡をいただけたらありがたいです。学校長として誠意をもって迅速に対応させていただきたいと思っております。今後とも情報発信を随時行ってまいりたいと思います。よろしくお願ひします。

令和5年4月3日

鹿児島市立星峯西小学校 校長 谷口源太郎